様式第２号（第４条関係）

# 豊明市行政評価制度　「事務事業」評価票

## １■事務事業の概要

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １－１事務事業の名称 | 歴史関係講座事業（主要事業） | | | | | | | |
| １－２担当 | 部 | 教育部 | 課又は施設 | 生涯学習課 | 係 | 文化財保護係 | 評価票作成者 | 文化財保護担当係長　近藤よし江 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １－３総合計画における施策の体系 | ①節 | 教育文化<br>「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」 | ③基本施策 | 文化財の保護 | コード | 4―1―3 |
| | | | ④単位施策(中) | 文化財保護の担い手づくり | コード | 4―1―3―2 |
| | ②項 | 生涯学習の推進 | ⑤単位施策(小) | 史跡ガイドの養成 | コード | 4―1―3―2―2 |
| １－４事務事業の目的の精査 | 対象と対象の数 | 文化財に関心のある市民 | 意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか） | 文化財関係講座の受講者が講師の役割を担う。 | | |
| １－５事務事業の内容 | 文化財に関連する講座を継続して実施することにより、受講生の知識を深める。 | | | | | |

## ２■事務事業実施の状況

| | | 事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み | 社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 | 市民ニーズの認識 |
|---|---|---|---|---|
| ２－１事務事業の実施における基本認識 | 平成18年度 | 歴史関係、自然関係の公民館講座を開催した。 | 講師の後継者を必要としている。 | 指定文化財をはじめ歴史や自然に対する関心が高まってきている。 |
| | 平成19年度 | 「近世文書を読む」と題した講座を開催するなど、従前よりレベルアップを図った。 | より多様で、よりレベルの高い講師を育成する必要がある。 | 豊明市の歴史や自然のみでなく、もう少し広い範囲の郷土史や自然に関心が拡がっている。 |
| | 平成20年度 | 昨年に引き続き「近世文書を読む」を開催し、更なる向上を図った。 | レベルの高い講師を、できるだけ多く育成する必要がある。 | 豊明市の歴史や自然のみでなく、もう少し広い範囲の郷土史や自然に関心が拡がっている。 |
| | 平成21年度 | 桶狭間合戦450年に向けて、観光ボランティアの養成について2年前から産業振興課と協議してきた。 | 郷土の文化財の価値を行政のみでなく、市民とともに広めていくことが重要である。 | 観光ボランティアの定着により、市民の関心が一層高まっていく。 |
| | 平成22年度 | 「近世文書を読む」には、観光ボランティアの積極的な参加があった。桶狭間の戦い450年記念講演会を実施（8/15（日）参加者210人）。観光ボランティアの活動が、市内の文化財全体に対応できるように育成することが必要。観光ボランティアの定着により、市民の関心が一層高まっていく。 | | |
| | 平成23年度 | 無形民俗文化財の保存会の方を講師に招き講座を実施、ビデオや実技を交えながらわかりやすく学ぶことができた。参加者には伝承の大切さも理解しいていただけた。「近世文書を読む」は熱心なリピーターから初心者まで関心が高い講座である。ナガバノイシモチソウ講座は、豊明高校生徒に多く参加していただけた。次世代に繋げたい。 | | |
| | 平成24年度 | | | |
| | 平成25年度 | | | |
| | 平成26年度 | | | |
| | 平成27年度 | | | |

| | 事務事業成果指標名 | 前期目標値(単位) | 後期目標値(単位) | 指標の説明 |
|---|---|---|---|---|
| ２－２総合計画における単位施策成果指標 | 文化財講座の開催回数（回／年） | 16（回／年） | 20（回／年） | 講座を通じて受講者の知識の涵養を図る。 |

| | | 平成１８年度 | 平成１９年度 | 平成２０年度 | 平成２１年度 | 平成２２年度 | 平成２３年度 | 平成２４年度 | 平成２５年度 | 平成２６年度 | 平成２７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２－３成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析） | 活動実績ａ（単位） | 60（人） | 55（人） | 84（人） | 49（人） | 51(人) | 41(人) | | | | |
| | 直接事業費ｂ（千円） | 50 | 50 | 70 | 30 | 32 | 114 | | | | |
| | 人件費ｃ（千円） | 141 | 141 | 144 | 24 | 24 | 38 | | | | |
| | 合計コストｄ(ｂ＋ｃ)（千円） | 191 | 191 | 214 | 54 | 54 | 152 | | | | |
| | 単位コストｄ／ａ（千円） | 1人当たり　3.2 | 1人当たり　3.5 | 1人当たり　2.5 | 当たり　1.1 | 当たり　1.1 | 当たり　3.7 | 当たり | 当たり | 当たり | 当たり |

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 →

活動実績：講座の受講者数
直接事業費：講師謝礼　114千円
人件費：　38千円（5回×2.5ｈ　3000円／ｈ）

| | | 平成１８年度 | 平成１９年度 | 平成２０年度 | 平成２１年度 | 平成２２年度 | 平成２３年度 | 平成２４年度 | 平成２５年度 | 平成２６年度 | 平成２７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移 | 指標対応実績（回） | 11 | 11 | 9 | 11 | 5 | 11 | | | | |
| | 後期目標値に対する達成度（%） | 55.0 | 55.0 | 45.0 | 55.0 | 25.0 | 55.0 | | | | |

**３■事務事業の自己評価結果**

| ３－1　評価結果 | | 平成１８年度 | 平成１９年度 | 平成２０年度 | 平成２１年度 | 平成２２年度 | 平成２３年度 | 平成２４年度 | 平成２５年度 | 平成２６年度 | 平成２７年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (アウトカム自己分析) | 単年度担当課評価 | A | A | A | A | B | B | | | | |

● ４段階評価結果 A ： 上位目的である施策に貢献しているので継続する
B ： 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C ： 縮小等、事務事業としての見直しが必要
D ： 事務事業の廃止が相当

● 判断の基準 ①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

| | | 今後の環境変化を踏まえた課題認識 | 次年度に向けて改善する取組み | 事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| ３－２評価の内容 | 平成18年度 | 後継者の育成 | 講座内容の検討 | 指定文化財をはじめ歴史や自然に対する関心が高まってきている。 |
| | 平成19年度 | 郷土の歴史と自然を、次世代に伝える指導者を育成する必要がある。 | 市民が望む歴史講座、自然講座とは何かを知る方法を探す。 | 「近世文書を読む」と題した講座を開催するなど、従前よりレベルアップを図ったが、受講者が少数であったのはPR不足であったと思われる。 |
| | 平成20年度 | 郷土の歴史と自然を、次世代に伝える指導者を育成する必要がある。 | 従前の講座にとらわれず、市民が興味を持つ講座を開催する。 | 講座の開催日数は減ったが、参加者は多くなったのでよかったと思う。また、「近世文書を読む」も市民に認知されたと思われる。 |
| | 平成21年度 | 観光ボランテアィアの裾野を広げていくために、郷土歴史検定の実施を検討していく必要がある。 | 観光ボランティアの質的向上を図る。 | 観光ボランティア養成講座を実施した。 |
| | 平成22年度 | 観光ボランテアィアの裾野を広げていくための取り組みが必要。観光ボランティアの情報量や知識の向上を図る。近世古文書を読む講座では、観光ガイドボランティアのメンバーにも参考になったと思われる。 | | |
| | 平成23年度 | 無形民俗文化財の理解と継承のため、保存会から講師を招いた。受講生の関心度は高かった。講師の育成が課題。 | | |
| | 平成24年度 | | | |
| | 平成25年度 | | | |
| | 平成26年度 | | | |
| | 平成27年度 | | | |

**４■事務事業の総合評価結果**

| | | 結果 | 審査会による改善方向の指示 |
|---|---|---|---|
| ４－１総合評価の結果 | 平成18年度 | A | 継続して事業を進めること。 |
| | 平成19年度 | A | 継続して事業を進めること。 |
| | 平成20年度 | A | 継続して事業を進めること。 |
| | 平成21年度 | A | 継続して事業を進めること。 |
| | 平成22年度 | A | 継続して事業を進めること。 |
| | 平成23年度 | A | 継続して事業を進めること。 |
| | 平成24年度 | | |
| | 平成25年度 | | |
| | 平成26年度 | | |
| | 平成27年度 | | |